

鎌倉フリーラン

貝拾い

期日 昭和四年十月廿一日(天皇誕生日)

参加者 岩根 泰彦氏

藤原 亨氏

野崎 信春氏

金谷 健氏

沢木 至氏

コース 全く不明。

距離 約35km x 2

天候 うす曇り

記録 沢木 至

丸子橋を渡るとすぐに道をまちがえてしまったらしい。まさに愚考を見ているようであった。全く神奈川県内の地理に弱い人が、無事に鎌倉に着けるのであるうか。もつとも今回のフリーランは一年生の僕と金谷は「ゲスト」なのぞ、途中のコースはおろか今回の目的さえ知らなかったから、残る藤原さん、岩根さん、野崎さんの聡明トリオ(当時)は本気でどう思った(はいた)にすべきをまかしていらたのだった。それにしても、あの信号だらけで交通渋滞で排ガスが目にしみる道をぎ々と走り、走り、交番に道を尋ねてみたり、地図を読み違えて、線路が右にあるとばかり思って走っていたり左に線路が現れたり、鎌倉ごときに全く予想もしない愚戦苦闘を強いられたのがあった。そして我々五人がそれにも負けず、ようやく鎌倉の

町に着くことができた時はもうお昼を過ぎ
いたようであった。この時の苦労が身にしみ
たのが藤原さんのフロントバックには「夏倉
宿中も鎌倉の地図がつけられていたとうである。

鎌倉井などを食べた後、あの聡明トリオは
疾へ貝拾いに、僕と金谷は大仏を見物に行つ
た。僕らはお寺で帰りは無事に東工大まで
帰りますように。」とお祈りしてから、乗に行
き、「先輩たちはいざいざ鎌倉まで来な何ごこ
んなに熱心に貝を拾っているのせう」という
素朴な疑問を持ちながらも、りつしよになつ
とほしむぎまいた。まわりの女づれの男に
ちには白もくれず、いい年こりて男だけぢん
が貝を拾っている姿は、はたの人たちにはど
う見えたのせうか。

先輩たちは、未練の残るまなごしで海をみつめ
ていたけれども帰ることになった。帰りは行きと
比べると驚く程順調に進んだが、横浜駅前まで来
た時今日のフリーラン唯一の事故が起こった。僕
の乗っていた堀さんから借りた自転車のクランク
の調子がおかしいのだ。なんと、コッターゼンの
ナットがない。幸い藤原さんが予備を持っていて
ので直ったが、全く僕の無知というが無神経とい
うか、そのために起こったことであつた。その後
無事だ。快調なペースで東工大に到着し部屋でピ
ールによる打ち上げをして、僕と金谷にとつての
初めこのフリーランを終えた。

ところで、今回のフリーランの目的は、『だから
貝が鎌倉の浜にあるという某氏の噂を信じこ』た
から貝を探すことであつたとうである。